



9月23日(金)

おいしいお酒になりますように
福岡で酒米の稲刈り

伯 耆町福岡の水田で9月23日(金)、5月に植えた酒米「五百萬石」が収穫の時期を迎え、稲刈りが行われました。

稲刈りには、(株)上代のほか、森の幼稚園 nichikusaの園児、皆生温泉旅館組合青年部ら約60人が参加。参加者は、黄金色に実った稲穂を手作業で丁寧に刈り取り、わらで結んで束にして、手際よく干していきましました。

収穫された米は、皆生温泉オリジナルの日本酒「海に降る雪」として、皆生温泉旅館の宿泊客に提供されます。年明けから仕込みが始まり、3,000本程度造られる見込みです。

参加者は作業に汗を流しながら、「腰が痛くなった」、「おいしいお酒になるのが楽しみ」と話しました。



▲丁寧に稲を刈り取る参加者たち



▲園児らも小さな鎌でお手伝い

9月25日(日)

大切な生命・家族・財産を守るために
伯耆町防災の日 一斉訓練

伯 耆町防災の日にちなんだ一斉訓練が9月25日(日)、町内各地で実施されました。これは、町民の防災意識の高揚と災害時の迅速な対応を目指して、伯耆町区長協議会が毎年実施しています。

当日は、町内で震度6強の地震が発生したという想定で、午前8時のサイレンを合図に、町内66集落、3,087人(うち要援護者123人)が、各集落の公民館などに避難しました。また、今回はペット同伴の避難訓練を行い、飼い主と一緒に35匹のペットが避難しました。

小野集落は、消防団員の指導の下、放水訓練を実施。消火器を使ったり、非常食を試食したりした集落もありました。



▲災害対策本部の様子



▲消防団員から放水を救われる住民

10月16日(日)

紅葉シーズン前に 大山をきれいに
秋の大山一斉清掃

大

山周辺の市町村で10月16日(日)、大山の一斉清掃が行われました。

この活動は、紅葉シーズンを前に、きれいな大山で観光客を気持ちよく迎えようと、地元企業や住民ボランティアが協力して、年に2回行っています。昭和52年に始まったこの活動は、今回で通算79回目。ボランティアの努力によって、大山のごみは年々減っています。

伯耆町は、地元自治会や企業ボランティアなど約150人が参加し、樹水高

原や樹水周辺の観光道路などを清掃しました。また、外来植物の繁殖を防ぐため、セイトカアワダチソウの駆除も行いました。

当日は気持ちよく晴れた秋空の下、参加者は1~2時間かけて、熱心に道路脇や山中に捨てられた菓子袋、カンなどを拾い集めました。今年4月の春の一斉清掃が悪天候で中止になったこともあってか、例年より多い約50袋のごみが収集されました。



▲樹水高原でごみ拾い



▲セイトカアワダチソウの駆除作業

10月16日(日)

秋の味覚求め賑わい
森と清流の里ふれあい祭り

地

元生産者が、自慢の野菜や加工品などを販売する「森と清流の里ふれあい祭」が10月16日(日)、大山ガーデンプレイスで開催されました。今年は、県内外から約3,500人が訪れ、会場は多くの家族連れで賑わいました。

会場では、野菜や果物、おこわ、味噌をはじめ、炭火焼肉やクレープなどの屋台が並び、多くの来場者で賑わいました。ほかにも、もちつきやしめ縄作りの無料体験コーナーや、毎年人気の景品抽選会などが行われ、大いに盛り上がりしました。

来場者は「おいしいそうな果物や野菜がいっぱいあって、見るだけでも楽しかった」と、買い物袋を手になくさん提げ、うれしそうに話しました。

また、当日会場内に設置されたチャリティ募金箱に、総額67,517円の募金が集まりました。この募金は、伯耆町社会福祉協議会へ全額寄付され、年末に実施する独居高齢者おせち配布事業費の一部として活用されます。



▲店頭にいっぱい並んだ柿



▲たくさんのお客で盛り上がったもちつき大会